

2011年6月29日

6年生の皆さまへ

弘前大学人文学部
ボランティアセンター
李 永 俊

野田村支援・交流活動報告書

こんにちは、私は先日皆さんの小学校へお邪魔いたしました弘前大学の李です。先日は貴重な時間をいただき、また、皆さんの温かい心のこもったお手紙を頂戴し、大変ありがとうございました。野田村のキャラクターののんちゃんや弘前のたかまる君、そしてハートいっぱいのお手紙など、呼びかけをした私たちまで嬉しくなるほど、大変楽しいお手紙でした。

皆さんから頂戴したお手紙は、先週の水曜日（6月22日）に野田村にお届けしました。22日の朝、5時45分に弘前を出発し、9時過ぎに野田村へ到着して、瓦礫撤去などのボランティアを行う班と、お手紙と新聞、そして被災者の皆さんが何に困っていらっしゃるのかわかろう調査班に分かれて、9時15分頃には活動を始めました。その日はボランティアが32名、調査班が6名の全部で38名の活動でした。

弘前大学教員2名と学生2名、そして一般市民2名の調査班は、最初に野田中学校のグラントに設置されている仮設住宅へ向かいました。そして、各自が皆さんからのお手紙をもって、一軒一軒訪ねて、お手紙と新聞を配りながら、皆さんのお話を伺ったり、話し相手になって悩み事を聞いたりしました。



集合写真（道の駅おおの）



野田中学校の仮設住宅



米田公民館での昼食会



米田公民館の皆さんへ

このお手紙は弘前市の小学生が皆さんに書いたお手紙ですよとお渡しすると、何人かの方は直ぐに封を開け、その場でお手紙を読んでいた。お手紙を読んで、涙を流す方もいらっしゃいました。私が訪ねた家は、中学生と小学生の兄弟が住んでいるお家で、皆さんが書いて下さったのんちゃんの絵がとっても上手だとほめてくれました。また、是非お返事したいですと話してくれました。

その後、お昼には野田村の米田地区の皆さんが、我々の活動に感謝の気持ちを伝えたいということで、お昼をご馳走してくださいました。まつたけご飯のおにぎりと手作りの豆腐をご馳走になりました。お豆腐は野田村の名産で、弘前ではなかなか味わうことができない、大変美味しい豆腐です。いつか皆さんも野田村に遊びに行った際には是非食べてみてください。元気が出ます。

ご馳走になった米田公民館も避難所になっているので、そちらにいらっしゃる方々にも皆さんからのお手紙と新聞をお渡ししました。また、弘前市民からご提供いただいた美味しいりんごジュースと手作りのパウンドケーキも一緒にお渡ししました。公民館を取りまとめている米田さんから、「いつも弘前の皆さんと一緒にいるような気がして、何でもできるような感じがします。今は大変ですが、必ず近い将来、元気な野田村に戻ってみせます」と大変力強いお言葉をいただきました。

その後、作業班は個人宅の庭の清掃に戻り、私たちは、もう一つの避難所となっている野田村の国民宿舎えぼし荘と、本町地区、旭町地区など役場周辺で、自宅が半壊などで残っているため、自宅で生活している個人宅を一軒一軒訪問して、そこでも皆さんからのお手紙をお渡ししました。中には、前に我々が瓦礫撤去と清掃を行ったお宅もあり、その後リフォームをなさったようで、きれいになった家を見せてくださいました。その家のおばあさんに皆さんからのお手紙を渡すと、すぐにのんちゃんの絵とたかまる君の絵を見つけ、可愛いと大変喜んで、居間に飾ってくださいました。

全部配れなかったお手紙の一部は野田村の教育委員会を通して、野田村の皆さんにお渡ししていただけるようお願いいたしました。また、残った一部は次回、別の仮設住宅が



個人宅の清掃作業



個人宅の清掃作業

できたら、お届けする予定です。皆さんの温かい心が、お手紙を通して野田村の皆さんに大変大きな勇気と人の温もりを与えてくれたと思います。

皆さんのご協力を心より感謝いたします。本当にありがとうございます。弘前大学人文学部ボランティアセンターでは今後も継続して野田村の皆さんとお付き合いをさせていただきたいと思っています。温かく見守ってください。また、皆さんも大きくなったら我々と一緒に野田村へ行きましょう。そして、のんちゃんにも会って、美味しい豆腐も食べましょう。

そのときまで、皆さん一人一人のがんばりと元気が、野田村の方々だけでなく、被災地の方々の元気につながることを忘れずに、皆さんが今やるべきことに一生懸命取り組んでいてください。

弘前大学人文学部ボランティアセンター